



農業から始まるSDGs 「共生社会」を目指す滋賀県



環境への負荷が少ない米栽培の様子

農福連携で障害を持つ人が活躍できる社会を目指す

「農業を1つのツールとして『共生社会』を目指す」滋賀県農政課の橋本さんはこう話す。農福連携は地域の中で行うからこそ重要であり、滋賀県では様々な人が農業というツールを通じて繋がる社会、「共生社会」を目指している。農福連携の形態は都市部と農村地域で異なる。都市部では障害を持つ人が地域の食材を使ったレストランで働くといった活動、農村地域では農作業をするといった活動が行われている。障害を持つ人が農業者の作業を手伝い働くために作業を細分化することが重要である。

現在、農業従事者と福祉事務所がマッチングを行って農福連携を行っている。滋賀県では、農作業を細分化してどのような作業がどこまでできるかを調査している最中だ。

滋賀県の農福連携は農業分野と幅広い福祉分野を繋ぎ、誰もがいきいきと地域で暮らし、共に働く共生社会づくりを進める内容となっている。今後の発展に注目したい。

日本一の環境こだわり農業からSDGsへ

環境こだわり農業は化学肥料や農薬の使用量が通常の半分以下で環境にやさしい農法だ。平成13年から取組がスタートし、今年で19年目になる。滋賀県は農地面積に占める「環境こだわり農業」の割合が日本一である。しかしその知名度はまだまだ低いのが現状だ。

県の食のブランド推進課の今井さんに話を聞くと「環境こだわり農産物を知っているか」というアンケートに対して知っているが答えた人が45.7%と約半数の人にしか知られていないことがわかった。また滋賀県では各種イベントや食の展示会、近江米のCMなどを通じて、環境こだわり農業を県内・県外のなるべく多くの人に知ってもらうための取組を行っている。今井さんは「環境と調和のとれた農業生産を行う環境こだわり農業はSDGs時代にふさわしい農業」と話す。多くの人が環境こだわり農業を知ればSDGsについて考える人も増えるだろう。まずはスーパーで買い物をするときはなるべく環境こだわり農産物を買うようにする。それがSDGsの第一歩につながるだろう。

人が繋がる地域創りを「子ども食堂」から

子ども食堂の取り組みを知っているだろうか。子ども食堂は子どもを真ん中においた地域づくりの一環として取り組まれている活動だ。「地域の子どもの食堂の活動に様々な背景を持つ方々に参加してほしい」と子ども・青少年局の村上さんは語る。子ども食堂では食事の提供だけでなく、食育や読み聞かせ

など、地域の特色を活かした取り組みが行われている。例えば農業体験などを通して人・環境・食と向き合う。子ども食堂はSDGsの様々な目標に広く関わるのである。



出典：滋賀県社会福祉協議会

取材先

滋賀県庁の皆様

農業と福祉というテーマの下、滋賀県庁の様々な部署から取材に応じて頂きました。

- ・農政課 橋本様
- ・食のブランド推進課 今井様
- ・子ども・青少年局 村上様
- ・企画調整課 橋本様



取材者

石神央稀 龍谷大学 農学部

小さい頃から祖母の畑仕事を手伝っていたこともあり農業や環境について関心がある。自分の生まれ育った滋賀県の魅力をもっと多くの人に知って欲しい。

山田洋介 滋賀大学 教育学部

高校の環境実習で海岸で漂着ゴミの山を見てから環境問題に関心を持つようになった。また福祉施設での体験学習で福祉の重要性を体感した。環境問題・福祉問題が身近なものであることを伝えたい。